

リーマン・ショック

米国の傀儡政権「小泉・竹中」路線を、リーマンショック（神風）が吹き、アングロサクソンの金融資本が日本の国富消尽を目論んだ略奪を、かろうじて、奇跡的に踏み止まらせた。日本再建の原資が紙くずと化し、消失する寸前でした。

これは東郷元帥がロシアのバルチック艦隊を撃破した幸運な世界情勢に似ています。元寇をはじめ、日本は過去の歴史の中で、奇跡が時々起

きたのを実感しました。郵政改革の四社分割で、国民の貯金があぐろサクソンに奪われる寸前。皮一枚でつながったのです。

郵政の西川善文社長の記者会見は以下の通り。「政府の基本方針は私がやってきたことと大きな隔たりがある。もはや現在の職にとどまることはできないと考えた」

これからは「東アジア」の時代です。アメリカは歴史から降板する流れです。アングロサクソンのどう猛さは人類種上最悪です。建国の歴史を見れば、強盗団そのものです。

そして、国家百年の戦略が、日本の前政権にあったとは、どうしても思えない。私には権力者を自認？「私欲」だけの、何処かの体だけがでかい老いぼれ爺しか目に付かない。小選挙区制、当然選んだ自己責任を負

がでかい老いぼれ爺しか目に付かない。小選挙区制、当然選んだ自己責任を負



うべし！。

命を懸け切り開く、米に對峙するヘッド（頭）がこの国にどれほどのいるのか、誠に残念です、今も見えてこない。中小・零細企業の社長より、劣った政権であったとしか言いようがないのでした。

農業政策も

国の補助金を農協（JA）が受け取る代わりに農協票が自民党に流れた構図、戦後の

農政のあり方が崩れつつある。自民党が全国の農協を通じて行ってきた農政が農業の崩壊を招いたものと考えています。国際金融資本の迂回資金がマスコミに回り、世論操作が、今日も盛んに「ばらまき」と非難を繰り返しています。

「戸別所得補償は、単なる農家補償ではなく、地域社会再生のための補償です」と、小沢氏が説明している。

「これからは、農協ではなく、現場の意見を聞いて政策を立案しないと日本農業は崩壊する」今私はこの新政権の政策転換に大いに期待している一人です。

いま大きな違いは、民主党

まず関与先の黒字化が大前提です。

このためには、自力再生が基本となります。景気回復に期待する自体が問題です。他力本願の宗教と同じです。

黒字化は体質の強化と人作りなのですが、簡単なことではありません。これは小さな地道な積み重ねでしかありません。現代は大きく、価値観が革

日本の企業の約80%が赤字

・拡大から進化
・人工から自然
と大きく意識がシフトしています。これをチャンスと見る人がいるのも事実です。

の大臣は昼夜を問わずに働いている。大臣はもちろん副大臣、政務官も脱官僚依存を掲げた手前、自ら勉強し、走り回っている。

前政権で仕事は全て役人任せ。レクチャーの最中に居眠りしていた大臣もいたという。それでも国会を乗り切れたのは、質問取りから答弁書作成、そのページをめくるところまで役人がやってくれたからだと言う。そんな大臣がやっていったのが利権あきりと金儲け。これまでの政治はなんだったのか、と思いき知らされるのである。



しかし凡人である私には正直なところ、具体的にまだ見えていません。しかしこれだけは、忘れていません。経営倫理。法律では規制されない方がよいことが、やられてなくても、やった方がよいことはやる。当然きまっている法律は守るのは、社会の常識なんです。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2009年10月22日（木）N069
地域から明るい未来を作ろう